

研究主題

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む 授業の在り方に関する研究（2年次）

－主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して－
【2年研究】

中学校社会科 高等学校地理歴史科・公民科

【研究担当者】 鈴木 徹 泉田 学

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

I 社会科・地理歴史科・公民科（以下「社会科」）で育成を目指す資質・能力の具体的な内容（三つの柱）

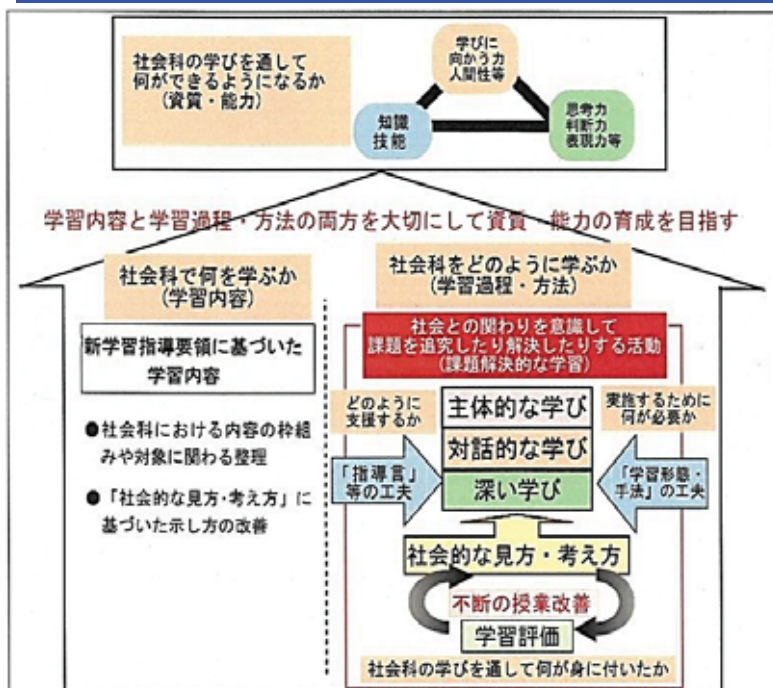
社会科で育成を目指す資質・能力は以下の表のとおりです。この内容を基本として、校種や分野、科目に応じて、さらに整理されています。

社会的事象についての 知識・技能	社会的事象についての 思考力・判断力・表現力等	社会的事象について 主体的に関わろうとする態度
<ul style="list-style-type: none"> ●社会的事象に関する知識 ・〔個別の事象に関わる知識〕 主として用語・語句などを含めた知識 ・〔概念に関わる知識〕 主として社会的事象の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる知識 ●社会的事象について調べまとめる技能 ・社会的事象に関する情報を 【収集する技能】 課題の解決に必要な社会的事象に関する情報を収集する技能 【読み取る技能】 収集した情報を社会的な見方・考え方を働かせて読み取る技能 【まとめる技能】 読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ●〈思考力・判断力〉 ・社会事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に【考察する力】 社会的事象個々の仕組みや働きを把握することにとどまらず、その果たしている役割や事象相互の結び付きなども視野に、様々な側面、角度から捉えることのできる力 ・社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて【構想（選択・判断）する力】 課題の解決に向けて自分の意見や考えをまとめることのできる力 ●〈表現力〉 ・考察したことや構想したことを 【説明する力】 考察したことや構想したことについて資料等を適切に用いて論理的に説明できる力 ・考察したことや構想したことを基に 【議論する力】 考察したことや構想したことを根拠にして、意見や考え方を伝え合い、自分や他者の意見や考え方を発展させたり、合意形成に向かおうとしたりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会的事象について主体的に関わろうとする態度 ・社会的事象について主体的に関わろうとして学習上の課題を意欲的に解決しようとする態度 ●よりよい社会の実現に向けて、多面的・多角的に考察、構想（選択・判断）したことを社会生活に生かそうとする態度 ●多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される愛情や自覚

校種や分野・科目ごとの詳細については、新学習指導要領を参照してください。

幼稚園、小学校、中学校高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）平成 28 年 12 月 21 日 中央教育審議会より作成

II 社会科における資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業づくり



上記のような資質・能力を育むためには、生徒たちが「何ができるようになるか」を明確にしなが、ら、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てて行くことが重要になります。

社会科では、これまで大切にしてきた「課題解決的な学習」を、「主体的・対話的で深い学び」の視点でより充実させていくこと、「深い学び」の実現に向けて、「社会的な見方・考え方」を働かせた学びを構想すること、生徒の学習状況を評価し、目標の実現状況を確認したり、評価したことを指導に生かしたりしていくために「学習評価」を充実させていくことが必要になります。これらのことをまとめたものが左の図です。

Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて—単元構想シートの活用—

授業改善に向けた取組では、生徒たちが学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、その取組を活性化していくことが重要です。この「主体的・対話的で深い学び」は、1単位時間で全てを実現しなければならないものでなく、単元のまとまりの中で実現を目指していくことが大切です。

そこで単元指導の大枠を効果的・効率的に構想していくために今回開発したのが次に示す「単元構想シート」です。高等学校の政治・経済の単元構想シートを例に、単元構想の考え方を示します。

高等学校 政治・経済 単元構想シート			
第3章 現代社会の諸課題 1 日本社会の諸課題		対象学級	〇〇
		生徒数	男〇名、女〇名、計〇名
		担当者	教諭 〇〇 〇〇
1 単元の目標(何ができるようになるか) ※ 評価規準は、単元の目標に準拠する。			
知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力等	
日本の諸課題について思考や判断の手掛かりとなる概念について理解する。(知識) 諸課題の解決に必要な情報を諸資料から収集し、思考や判断の手掛かりにする。(技能)	日本の諸課題について、既習の概念等を活用して、多面的・多角的に考察し、社会参画を視野に入れながら解決に向けて構想し表現することができる。	諸課題について、よりよい社会の実現のために主体的かつ協働的に解決し、社会参画を視野に入れながら意欲的に追究しようとしている。	
2 単元で働かせる「見方・考え方」			
政治・経済における「社会的な見方・考え方」			
何について(学習の対象となる社会的事象)	どのような点に着目して(視点)	どのように考えるか(方法)	
社会事象等を	倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え	課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付けること。	
単元で働かせる「社会的な見方・考え方」			
何について(学習の対象となる社会的事象)	どのような点に着目して(視点)	どのように考えるか(方法)	
日本(岩手)の諸課題を	政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え	複数の立場や意見を踏まえて社会を形成する主体者として構想し、協働しながら合意形成を踏まえて考察すること。	
3 単元における「学習課題」と「期待する姿」			
【単元の学習課題】			
これからの日本(岩手)を我らはどうしてゆく? ※パフォーマンス課題では、上記の学習課題(岩手)について、「選挙公約」として課題点を明確化し、その改善についての方策を検討する。			
【期待する姿】			
岩手の諸課題について、各単位時間で取り上げた課題の中から、最重要課題であると判断したものについて、その判断根拠を明示し、解決についての施策を共感的に提案している。			
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて(社会科における授業改善の視点) ◎生徒の学習活動 ■教員の手立て			
主体的な学び (学習への興味や関心を高める場面、学習の見通しを持つ場面、学習を振り返りにつなげる場面の設定)	対話的な学び (自己の思考を広げ深める場面の設定)	深い学び (見方・考え方を働かせながら思考・判断・表現する場面の設定)	
◎単元および各単位時間の学習課題を把握し、動機付けや方向付けとする。 ◎学習したことを振り返り、その意義を理解し今後の社会や人生に生かそうとする。 ■学習課題までの的確なアプローチ方法を吟味し導入する。 ■内容や活動に応じた振り返りの場面を設定する。	◎他者との意見交換や議論を通して、集団や個人の理解や考えを深める。 ■深い学びとのつながりに留意した授業を展開する。 ■生徒同士の協働や、合意形成の場面を設定する。	◎社会参画を視野に入れ、課題を追究したり解決したりする活動を行う。 ■人間と社会の在り方について、見方・考え方をを用いた考察や等を授業に組み込む。	
4 単元の指導と評価の計画(全5時間)			
時間	タイトル(★) 期待する姿の例(□) ※概要用語・語句(・)	【評価の観点】 評価規準 【評価方法】	学習過程(①)・学習課題(■)・主な学習活動(◎) ※学習活動を複数記述した場合、重点(◎)、それ以外(○) 単元の中で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現を目指す主な場面
1	★少子高齢社会において社会保障はどうあるべきか □大きな政府では、高負担ではあるが社会保障や政府の景気対策も充実し、経済成長にもつながる。	【思考力・判断力・表現力等】 自らの選択について、明確な根拠に基づいて説明している。 【レスポンスカードへの記述】 【主体的に学習に取り組む態度】 課題とその解決について関心を持ち、主体的に調べ分かつようとして、意欲をもって追究している。 【観察】	【課題把握 課題追究(1)】 ■パフォーマンス課題(単元の学習課題)およびルーブリックの提示 ■大きな政府と小さな政府、どちらを選ぶ?そしてその理由は? ◎T1、T2によるディベート(学習課題を論題として)にジャッジとして参加し、自らの判断とその理由を意志表示する。他者のジャッジコメントや資料を参考にし、最終的な自分の意見を確立する。 【主体的な学び】 【対話的な学び】 【深い学び】

STEP 1
学習する内容の一まとまりを単元として設定します。

STEP 2
単元で育成を目指す「資質・能力」を明確にします。

STEP 3-①
分野/科目の「社会的な見方・考え方」を確認し...

STEP 3-②
この単元で働かせる「社会的な見方・考え方」を具体化して...

STEP 3-③
単元の「学習課題」を設定します。

STEP 4-①
「学習課題」を解決した姿を描き...

STEP 0 生徒の実態に合わせた「授業づくりの方針」を常に念頭に置きながら!

単元構想シートを使った授業づくりについては後述の「ガイドブック」に詳細に記載してあります。

STEP 4-②
この時間に何を理解させたいのか「学習内容」を明確にします。

STEP 5
「主体的・対話的・深い学び」を目指す「課題解決的学習」をデザインします。

STEP 6
学習の充実度を見取るため、「評価方法」を明確にします。

IV 資質・能力を的確に見取る学習評価ーパフォーマンス評価を例にー

パフォーマンス評価とは、知識やスキルを使いこなす（活用・応用・統合する）ことを求めるような評価方法で、論説文やレポートなどの完成作品や、スピーチやプレゼンテーションなどの実演を評価するもので、思考力、判断力、表現力、応用力などの高次な学習活動を必要とする学力を評価しようとする評価方法です。パフォーマンス評価を行うために、生徒に提示される課題をパフォーマンス課題と呼び、単元で学んだ要素を統合して取り組めるよう「まとめの課題」として単元の中に位置付けたいものです。

また、パフォーマンス課題は、生徒の考えや理解の深まりを評価するものであるため、「質的」に評価することが重要です。そのためには「質」を価値づける基準が必要となります。その基準を示すのがルーブリックです。このパフォーマンス課題とルーブリックについて作成の考え方を中学校社会科の公民的分野を例に記載します。

中学校社会科 公民的分野 単元「私たちが生きる現代社会の特色」

パフォーマンス課題

ルーブリック

① 学習指導要領を基に単元の指導目標を確認する。

② 単元の目標、学習課題の実現に向け、生徒に求めるパフォーマンスをイメージする。

- 何がパフォーマンス課題の目的か？
- 課題のなかで生徒が担う役割は何か？
- 誰を相手に表現するのか？
- どんな状況を想定するのか？
- 生み出すべきパフォーマンス（作品や実演の内容）は何か？
- 評価の観点（ルーブリック）は何か？

③ イメージしたパフォーマンスを引き出すパフォーマンス課題・シナリオを作る。

- 測りたい学力に対応しているか。
- 現実世界で試されるような力に対応しているか。
- 生徒たちの身に迫り、やる気を起こさせるような課題か。
- 生徒たちが背伸びすれば手が届く程度のちょうどよい難度か。

[グローバル化・情報化・少子高齢化の進行は、10年後の◇◇市にどのような影響をもたらしているのか?]

私たちが暮らす◇◇市は、「自然とひとが共生するやすらぎのまち」づくりをテーマにしている豊かな自然に恵まれた街です。

市では、将来のまちづくりを担うことになる中学生を対象に「10年後の◇◇市を考える会」を開き、未来像について考えを交流する機会をもつことになりました。あなたは、その会に学校を代表して参加します。

会では、これから学んでいく現代社会の特色としての「少子高齢化・情報化・グローバル化」の中で、あなたが10年後の◇◇市に最も大きな影響を与えていると考えるものを1つ選び、その影響の様子とそれについての自分の考え（影響を生かす方法、影響への対策）をレポートにまとめ、参加者（他校の代表生徒）に向け発表します。発表時間は1分以内です。

参加者に、「なるほどなあ・・・」と思わせることができるような発表を目指しましょう。

ルーブリックを作成する際の視点

具体性：考えが具体的に述べられているか。

根拠：確かな根拠を基に考えを述べているか。

比較：他の場所や人などとの比較の上で考えが示されているか。

主張：自分の考えが表明されているか。

論理性：筋道を立てて分かりやすく考えを述べているか。

※これらを組み合わせたり、選択したりして作成

目指す学習活動の内容

評価規準	思考力・判断力	表現力
	10年度の◇◇市に与える影響とそれについての自分の考え（影響を生かす方法・影響への対策）を単元の学習を生かして説明している	自分の考えを筋道を立てて分かりやすく説明している
5 ※A すばらしい	「グローバル化」「情報化」「少子高齢化」のいずれかの進行が、10年後の◇◇市に与える影響とそれについての自分の考え（影響を生かす方法・影響への対策）を資料やデータを効果的に用いてレポートにまとめている。	適切な資料・内容や表現方法を選び、自分の考えを効果的に説明している
4 良い	「グローバル化」「情報化」「少子高齢化」のいずれかの進行が、10年後の◇◇市に与える影響とそれについての自分の考え（影響を生かす方法・影響への対策）を資料やデータを用いてレポートに記述している。	自分の考えが明確に伝わるように説明する内容を組み立て、筋道を立てて分かりやすく説明している
3 ※B 合格	「グローバル化」「情報化」「少子高齢化」のいずれかの進行が、10年後の◇◇市に与える影響とそれについての自分の考え（影響を生かす方法・影響への対策）を単元の学習を生かしてレポートに記述している。	自分の考えを筋道を立てて分かりやすく説明している
2 もう一歩	「グローバル化」「情報化」「少子高齢化」のいずれかの進行が、10年後の◇◇市に与える影響について、単元の学習を生かしてレポートにまとめている。	自分の考えを説明しているが、筋道の筋道や分かりやすさが不十分である
1 ※C がんばりましょう	「グローバル化」「情報化」「少子高齢化」のいずれかの進行が、10年後の◇◇市に与える影響について、レポートに記述できていない。	自分の考えを説明できていない

[4 良い]は、[3 合格]の内容も達成できていることを含めて、[5 すばらしい]⇒[3 合格・4 良い]の内容も達成できていることを含めて判定する。

目指す学習活動が、どれだけ達成できたかを判断する基準

V 「類似の課題」に対してくり返し活用できるルーブリック

単元を越えてくり返し類似の課題に取り組ませる場合、一貫したルーブリックを用いて評価することにより、生徒の成長を捉えることができます。単元の学習内容によらず、汎用的に活用できるもので、これに基づいて見取る力を選択したり、組み合わせる活用することが考えられます。

また、繰り返して活用していくことでどのような力をつけて行けばよいのか、教員も生徒も長期的な見通しをもって授業に臨むことが期待されます。

評価の観点	思考力・判断力		表現力	
	考察(よく調べて考える)する力	構想(考えを組み立てる)する力	説明(相手によくわかるように述べる)する力	議論(意見を述べあう)する力
	社会の事柄の意味や意義、特色や関連を考察(よく調べて考える)する	社会にみられる課題をしっかりと理解して、その解決に向けて構想(考えを組み立てる)する	考察したこと、構想したことを説明する	考察したこと、構想したことをもとに議論する
5 ※A すばらしい	社会の事柄等について、すでに理解し身に付けていた知識を生かして、様々な立場(国民、大人、子ども、男性、女性等)や側面(地理的、歴史的、政治的、経済的等)から考察(よく調べて考える)している	社会に見られる課題を詳しく理解して、その解決に向けて自分なりの考え方をよりどころにして構想(考えを組み立てる)している	適切な資料・内容や表現方法を選び、自分の考えを効果的に説明したり、論述したりしている	意見を一致させることやよりよい社会づくりに加わることを目指して、社会の事柄等について考えたことを、適切さや効果、実現できる可能性などを基準にして議論している
4 良い	社会の事柄等について、様々な立場(国民、大人、子ども、男性、女性等)から考察(よく調べて考える)している	社会に見られる課題を理解して、その解決に向けて学習したことをもとに複数の立場や意見をふまえて選択・判断している	自分の考えが明確に伝わるように説明する内容を組み立て、筋道を立てて分かりやすく説明している	他の人の意見をふまえたり、取り入れられたりして、社会の事柄等について自分の考えを組み立て直しながら議論している
3 ※B 合格	社会の事柄等について、様々な立場(政治家、国民、大人、子ども、男性、女性等)から考察(よく調べて考える)している	社会に見られる課題を理解して、その解決に向けて学習したことをもとに、社会への関わり方を選択・判断している	根拠や理由を明確にして、自分の考えを筋道を立てて分かりやすく説明している	他の人の意見と結びつけたり、立場や根拠を明確にしたりして、社会の事柄等について自分の考えを主張している
2 もう一步	社会の事柄等について、調べ考えているが、様々な立場(政治家、国民、大人、子ども、男性、女性等)をふまえていない	社会への関わり方を選択・判断しているが、社会に見られる課題の理解が不足していたり、これまで学習したことを生かしたりすることができていない	自分の考えを説明しているが、根拠や理由が不十分である	社会の事柄等に自分の考えを主張しているが、他の人の意見と結びつけたり、立場や根拠を明確にしたりすることはできていない
1 ※C がんばりましょう	調べ考えることができていない	社会への関わり方を選択・判断できていない	自分の考えを説明できていない	自分の考えを主張できていない

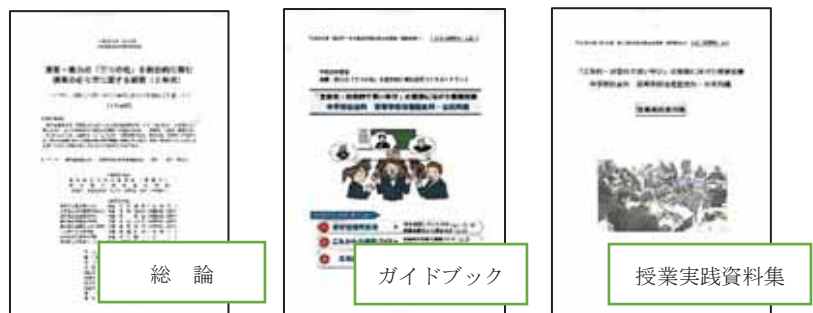
【判定基準4】は、判定基準3の内容も達成できていることを含めて、【判定基準5】⇒判定基準3・4の内容も達成できていることを含めて判定する。

※前述の(答申)別添 3-3 を基に作成

VI 研究のまとめと実践事例(総論・ガイドブック・授業実践資料集)について

今回示した「単元構想シート」は、単元の学習を通して育成を目指す資質・能力を明確にした上で、単元全体及び単位時間ごとの学習内容や学習過程・方法を構想するために効果的であると考えます。また「パフォーマンス評価」についても、知識量等の「量的な面」のみでなく、育成された資質・能力について深まりや広がりといった「質的な面」から評価する方法として有用であると考えます。本研究を参考に、目の前の生徒の実態に合わせて授業改善を進めていただきたいと思います。

今回の研究の詳細については、研究の「総論」を示した“資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業の在り方に関する研究(2年次)ー主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通してー”，社会・地歴公民の授業づくりを示した“平成29年度版 資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業づくりガイドブック 中学校社会科・高等学校地理歴史・公民科編”，研究協力校や研究協力員の実践事例を掲載した“授業実践資料集”をご覧ください。いずれも総合教育センターのWebページに掲載してあります。また、「単元構想シート」のフォーマットも掲載しておりますのでご利用ください。



- 本研究で取り組みました国語、社会・地歴公民、数学、理科、外国語(英語)の研究成果をガイドブックとしてまとめておりますので、ぜひご覧ください。
- 本研究の報告書(総論)と各教科のガイドブック及び単元構想シートは、下記の岩手県立総合教育センターのWebページに掲載しております。

■これまでの研究一覧

<http://www1.iwate-ed.jp/kenkyu/h09~/index.html>